

(様式第 10)

兵 医 法 第 9 4 号  
平成 29 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

学校法人 兵庫医科  
理事長 新家 莊平

兵庫医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
氏 名	学校法人 兵庫医科大学 理事長 新家 莊平

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

兵庫医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号	電話(0798)45-6111
--------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
②医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績			
・感染症内科を標榜していないが、主として総合内科および感染制御部にて左の診療科の医療を提供			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していな

い診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 <input checked="" type="checkbox"/> 1呼吸器外科 <input checked="" type="checkbox"/> 2消化器外科 <input checked="" type="checkbox"/> 3乳腺外科 <input checked="" type="checkbox"/> 4心臓外科 <input checked="" type="checkbox"/> 5血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 6心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 7内分泌外科 <input checked="" type="checkbox"/> 8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="checkbox"/> 1精神科 <input checked="" type="checkbox"/> 2小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 3整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 4脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 5皮膚科 <input checked="" type="checkbox"/> 6泌尿器科 <input checked="" type="checkbox"/> 7産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 8産科 <input checked="" type="checkbox"/> 9婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 10眼科 <input checked="" type="checkbox"/> 11耳鼻咽喉科 <input checked="" type="checkbox"/> 12放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 13放射線診断科 <input checked="" type="checkbox"/> 14放射線治療科 <input checked="" type="checkbox"/> 15麻酔科 <input checked="" type="checkbox"/> 16救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科    2矯正歯科 <input checked="" type="checkbox"/> 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

リハビリテーション科    臨床検査科    病理診断科    糖尿病内科    肝臓・胆のう・膵臓内科 腫瘍内科    形成外科    美容外科    頭頸部外科    ペインクリニック・疼痛緩和外科
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
44床	床	床	床	919床	963床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	623	186	653.1	看護補助者	133	診療エックス線技師	0
歯科医師	24	10	29.7	理学療法士	35	臨床検査技師	116
薬 剤 師	77	1	77.2	作業療法士	13	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	14	その他	0
助産師	37	1	37.7	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1020	22	1033.0	臨床工学士	21	医療社会事業従事者	11
准看護師	0	1	0.8	栄 養 士	0	その他の技術員	22
歯科衛生士	6	0	6.0	歯科技工士	2	事務職員	225
管理栄養士	10	0	10.0	診療放射線技師	54	その他の職員	52

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	37人	眼科専門医	18人
外科専門医	61人	耳鼻咽喉科専門医	15人
精神科専門医	10人	放射線科専門医	1人
小児科専門医	19人	脳神経外科専門医	11人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	26人
産婦人科専門医	16人	救急科専門医	12人
		合 計	257人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 病院長 難波 光義 ) 任命年月日 平成 26 年 4 月 1 日

「日本医師会医療安全推進者養成講座」受講済

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	770.9人	8.9人	779.9人
1日当たり平均外来患者数	1718.4人	71.1人	1789.5人
1日当たり平均調剤数			1212.0剤
必要医師数			183人
必要歯科医師数			6人
必要薬剤師数			26人
必要(准)看護師数			452人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要		
集中治療室	450.44m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (RC)	病床数	20床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	339.44 m <sup>2</sup> 台	病床数	22床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 [共用室の場合] 共用する室名	41.95 m <sup>2</sup>				
化学検査室	159.45m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備)	自動分析装置LABOSPECT008、 ディメンションRXL、Cobas8000		
細菌検査室	145.85m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備)	Auto-Scan W/A、バクテアラート3D、 MGIT、Taqman		
病理検査室	155.92m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備)	クリオスタット、連続迅速自動固定包埋装置		
病理解剖室	110.67m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備)	解剖台、サクラリサイクラー、エコプロセス		
研究室	12,911m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (SRC)	(主な設備)	CO2インキュベーター、オートクレーブ、 オールインワン蛍光顕微鏡、 リアルタイムPCRシステム		
講義室	5,363m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (RC)	室数 11室	収容定員 1,261人		
図書室	1,365m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート (RC)	室数 1室	蔵書数 106,000冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	85.7. %	逆紹介率	59.1 %
算出根拠 A: 紹介患者の数			24241 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			17577 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1256 人
D: 初診の患者の数			29752 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
村尾 仁	大阪医科大学附属病院	○	医師	無	1
夏住 要一郎	色川法律事務所		弁護士	無	1
中西 清	学校法人兵庫医科大学		医療を受ける者 (公認会計士)	有	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 無
委員の選定理由の公表の有無	有 無
公表の方法 病院公式ホームページ	





(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名	肝以外の腫瘍に対するラジオ波凝固治療	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要 肺、腎臓、副腎、骨・軟部腫瘍の外科的切除が困難な患者に対して、局所麻酔下で経皮的に施行可能なラジオ波凝固治療を施行し、より低侵襲な治療を提供している。			
医療技術名	オルダミンを用いた多発性肝嚢胞に対する硬化療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 症状を有する多発肝嚢胞症例で、外科的治療が困難又はリスクが高い患者等に対して、従来の硬化剤ではなくオルダミンを用いることにより、再発を防ぎ質の高い医療を提供している。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	86
2	筋萎縮性側索硬化症	13	57	特発性拡張型心筋症	47
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症	9
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	15	60	再生不良性貧血	53
6	パーキンソン病	219	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	9	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	80
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	9
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	162	66	IgA 腎症	11
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	11
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	104	68	黄色靱帯骨化症	6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	26	69	後縦靱帯骨化症	90
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	55
16	クロー・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	39
17	多系統萎縮症	27	72	下垂体性ADH分泌異常症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	51	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	9
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	32	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	22
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	71
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	10	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	1	84	サルコイドーシス	53
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	16
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	4
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	0
34	神経線維腫症	5	89	リンパ脈管筋腫症	4
35	天疱瘡	15	90	網膜色素変性症	23
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	11	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	32
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	20	95	自己免疫性肝炎	9
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	1080
42	結節性多発動脈炎	10	97	潰瘍性大腸炎	1740
43	顕微鏡的多発血管炎	28	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	19	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	33	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	8	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	345	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	120	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	169	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	61	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	46	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	15	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12
113	筋ジストロフィー	5	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	2	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治類回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	6	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーフム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	2
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	6
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	6
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	70

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	カナバン病	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
1	進行性白質脳症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
0	進行性ミオクローヌスてんかん	321	非ケトーシス型高グリシン血症	1
0	先天異常症候群	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
0	先天性三尖弁狭窄症	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
0	先天性僧帽弁狭窄症	324	メチルグルタコン酸尿症	0
0	先天性肺静脈狭窄症	325	遺伝性自己炎症疾患	0
1	左肺動脈右肺動脈起始症	326	大理石骨病	2
0	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
143	カルニチン回路異常症	328	前眼部形成異常	0
0	三頭酵素欠損症	329	無虹彩症	5
1	シトリン欠損症	330	先天性気管狭窄症	1

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料	・退院支援加算2
・救急医療管理加算	・退院支援加算3
・臨床研修病院入院診療加算	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料1
・診療録管理体制加算2	・救命救急入院料4
・医師事務作業補助体制加算1	・特定集中治療室管理料1
・急性期看護補助体制加算 (25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割以上))	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算2)	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・看護補助加算2	・総合周産期特定集中治療室管理料
・無菌治療室管理加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算2	・小児入院医療管理料2
・緩和ケア診療加算	
・精神病棟入院時医学管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・遺伝学的検査
・高度難聴指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・糖尿病合併症管理料	・検体検査管理加算(IV)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・国際標準検査管理加算
・がん患者指導管理料1	・遺伝カウンセリング加算
・がん患者指導管理料2	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん患者指導管理料3	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・外来緩和ケア管理料	・ヘッドアップティルト試験
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・腎不全期患者指導加算	・ロービジョン検査判断料
・外来放射線照射診療料	・コンタクトレンズ検査料1
・ニコチン依存症管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・開放型病院共同指導料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携管理料	・ポジトロン断層撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・薬剤管理指導料	・CT撮影及びMRI撮影
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料2	・心臓MRI撮影加算
・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	・乳房MRI撮影加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・外来化学療法加算1
・造血器腫瘍遺伝子検査	・無菌製剤処理料
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・廃用症候群リハビリテーション料(I)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)

・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・がん患者リハビリテーション料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経皮的冠動脈形成術
・精神科作業療法	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・認知療法・認知行動療法1	・経カテーテル大動脈弁置換術
・医療保護入院等診療料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・透析液水質確保加算2	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・一酸化窒素吸入療法(新生児の低酸素呼吸不全に対して実施するもの)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・CAD/CAM冠	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
・歯科技工加算1及び2	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・補助人工心臓
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・肝臓悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下肝切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体部分肝移植術
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・羊膜移植術	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・網膜再建術	・同種死体腎移植術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術、植込型骨導補聴器交換術及び人工中耳用材料	・生体腎移植術
・膀胱水圧拡張術	・口腔病理診断管理加算2
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・人工尿道括約筋植込・置換術	
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	
・輸血管理料Ⅰ	
・自己生体組織接着剤作成術	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	

・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・画像誘導密封小線源治療加算	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	
・テレパソロジーによる術中迅速細胞診	
・病理診断管理加算2	



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補委	委託元
CI療法における長期効果の神経基盤の解明とより効果的な治療戦略の構築	道免 和久	リハビリテーション科	1,430,000	補委	日本学術振興会
臨床決断支援システムを用いた薬剤性有害事象対策の有効性に関する研究	森本 剛	臨床研究支援センター	6,370,000	補委	日本学術振興会
特殊な変異を有するGISTに対する特異抗体を用いた診断法の開発と治療への応用	廣田 誠一	病理診断科	6,500,000	補委	日本学術振興会
進化する医療光学技術に対応する新しい消化器解剖図の作成ー腸間膜可視化プロジェクト	篠原 尚	上部消化管外科	12,740,000	補委	日本学術振興会
東アジアにおける筋ジストロフィーオーダーメイド治療開発のための分子疫学的調査	竹島 泰弘	小児科	8,710,000	補委	日本学術振興会
農村型ライフスタイルから探るフレイル予知法と予防戦略	新村 健	総合内科	6,630,000	補委	日本学術振興会
がん微小環境における転移制御因子の同定と胃がん治療戦略の確立	菊池 正二郎	上部消化管外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
消化管粘膜の恒常性維持におけるReg 蛋白の役割	福井 広一	消化管内科	780,000	補委	日本学術振興会
冠動脈ステント留置後の心臓血管内視鏡検査に関する多施設共同研究	石原 正治	冠疾患内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
IgA腎症発症に関わる口腔内免疫応答の解明	長澤 康行	腎・透析内科	650,000	補委	日本学術振興会
軸索ジストロフィーモデルマウスを用いた神経軸索障害の成因に関する研究	芳川 浩男	神経内科	390,000	補委	日本学術振興会
メタボリックシンドローム・動脈硬化における終末糖化産物・血管炎症の意義	小山 英則	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
筋ジストロフィー分子治療の有効性に関する炎症性物質の動態に関する研究	竹島 泰弘	小児科	1,170,000	補委	日本学術振興会
角化症における警告因子の誘導と病態	山西 清文	皮膚科	1,170,000	補委	日本学術振興会

小計14

FDG-PETによる術前化学療法の早期治療効果判定法の確立	三好 康雄	乳腺・内分泌外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
大腸癌におけるオキサリプラチン耐性の異なる二つの分子マーカー同定と臨床応用	富田 尚裕	下部消化管外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
肝内胆管癌におけるHemidesmosome関連蛋白の働きと治療への応用	宇山 直樹	肝・胆・膵外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
骨肉腫の肺転移抑制におけるmTOR阻害剤とバルプロン酸併用による有効性向上の研究	麩谷 博之	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
高齢者の痛みにおける高齢者総合的機能評価およびエビジェネティクスの関与の解明	廣瀬 宗孝	麻酔科学・疼痛制御科	1,040,000	補委	日本学術振興会
尿路病原性大腸菌の薬剤排出ポンプ機能の阻害によりキノロン耐性誘導を阻止する	山本 新吾	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
新しいC5a受容体アンタゴニストの設計法の開発	西浦 弘志	病院病理部	1,040,000	補委	日本学術振興会
人工呼吸関連肺炎予防のための経口気管挿管患者に対する最適な口腔ケア方法の確立	岸本 裕充	歯科口腔外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
NUDT15遺伝子多型を用いた炎症性腸疾患の個別化医療へ向けたエビデンスの確立	中村 志郎	炎症性腸疾患内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
肝線維化・脂肪化の新規超音波診断法の開発と発癌予測・バイオマーカーの探索への展開	飯島 尋子	超音波センター	1,560,000	補委	日本学術振興会
終末糖化産物受容体によるグルコシルコイド代謝・作用調節とその機序の解明	庄司 拓仁	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
S1P受容体アンタゴニストとIL-2・抗IL-2免疫複合体による関節リウマチ治療	佐野 統	リウマチ・膠原病内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
羊膜間葉系幹細胞によるステロイド抵抗性膠原病・膠原病類縁疾患に対する治療の確立	松井 聖	リウマチ・膠原病内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
自然リンパ球の活性化と皮膚炎の病態に関する研究	今井 康友	皮膚科	1,560,000	補委	日本学術振興会
脳機能的妥当性検証による強迫スペクトラムの新規分類基準の提唱	松永 寿人	精神科神経科	910,000	補委	日本学術振興会

ポリマーゲル線量計を用いた放射線治療における金属の影響解析	富士原 将之	放射線医学	1,560,000	補委	日本学術振興会
放射線増感剤・防護剤併用による放射線直腸粘膜障害の予防－酸素と亜鉛の功罪解明－	上紺屋 憲彦	放射線科	780,000	補委	日本学術振興会
乳癌術前化学療法の治療効果における局所ならびに全身性の免疫応答の意義の解明	今村 美智子	がんセンター	1,560,000	補委	日本学術振興会
家族性大腸腺腫症患者における分子マーカー探索と新規治療法開発	山野 智基	下部消化管外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
Sulfataseの胆管癌における役割の解明と治療への応用	中村 育夫	肝・胆・膵外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
細胞周期を標的としたCDK阻害剤による分子標的治療法の開発	橋本 昌樹	呼吸器外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ヒト脂肪組織由来幹細胞移植による脳梗塞再生療法の臨床応用のための研究	吉村 紳一	脳神経外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ヒドロキシエチルデンプン製剤が侵襲時glycocalyx構造におよぼす物理的作用	多田 羅 恒雄	麻酔科学・疼痛制御科	1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔癌における新規リンパ管新生抑制因子の機構解明	山根木 康嗣	病院病理部	1,950,000	補委	日本学術振興会
骨微小環境における構造変化関連因子の解明	高岡 一樹	歯科口腔外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
臍帯血と臍帯由来間葉系幹細胞の骨髄内共移植による新たな治療戦略	岡田 昌也	血液内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
トランスフェリン受容体1を介した心血管病の病態発症機構の解明と新規治療法の開発	内藤 由朗	循環器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
機能性消化管疾患における生体粘膜上皮バリア機能評価法の開発とその応用	大島 忠之	消化管内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
我が国における非心臓性胸痛(NCCP)の実態調査とその病態の解明	三輪 洋人	消化管内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
肝癌由来増殖因子とヌクレオリンの機能解析による新たな肝癌治療の開発	榎本 平之	肝・胆・膵内科	1,820,000	補委	日本学術振興会

悪性中皮腫の診断および予後予測に有用なバイオマーカーの確立と新規治療開発	田端 千春	がんセンター	1,690,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病での治療によるフラタキシンの回復と合併症の予防	蓮池 由起子	腎・透析内科	650,000	補委	日本学術振興会
動脈硬化進展における鉄の関与の解明	木田 有利	腎・透析内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
高い移植片対白血病効果を発現するヒト白血球抗原半合致移植の研究	小川 啓恭	血液内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
小児腹部手術周術期におけるグレリンの病態生理学的意義の検討と臨床応用に向けた研究	銭谷 昌弘	小児外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
低酸素応答システムからみた肝動脈塞栓術後の肝癌再発機序解明と、新規治療戦略開発	高木 治行	放射線科	1,820,000	補委	日本学術振興会
治療抵抗性の肝転移に対する球状塞栓物質を用いた肝動脈塞栓療法:多施設共同臨床試験	山門 亨一郎	放射線科	1,820,000	補委	日本学術振興会
従来肝動脈塞栓術不応後の肝細胞癌に対する球状塞栓物質を用いた肝動脈化学塞栓療法	石蔵 礼一	放射線医療センター	1,820,000	補委	日本学術振興会
転移再発乳癌の薬剤耐性遺伝子変異を効果予測因子とする最適な治療戦略の研究	荒木 和浩	乳腺・内分泌外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫の癌幹細胞を標的としたStat3阻害治療(START)に関する研究	松本 成司	呼吸器外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
妊娠の成立と維持に関する新しい免疫担当細胞の同定と機能解析	福井 淳史	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
子宮体癌におけるイラコナゾールの抗腫瘍効果解析及びレスポンドアの同定	鰐本 浩志	産科婦人科	2,080,000	補委	日本学術振興会
CD8陽性T細胞におけるIL-18によるオートファジーと腫瘍免疫に関する研究	都築 建三	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
小児悪性腫瘍の化学療法に伴う消化管粘膜障害における漢方薬の有効性に関する検討	佐々木 隆士	小児外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ハイブリッド型人工神経を用いた端側型神経移植における神経再生様式の解析	垣淵 正男	形成外科	1,690,000	補委	日本学術振興会

敗血症における男性予後改善の 治療標的としてのIL-18の可能性	小谷 穰治	救急科	2,340,000	補 委	日本学術振 興会
口腔癌への癌化学療法がもたらす ゲノムの加速的変化と治療抵抗性 獲得メカニズムの解析	野口 一馬	歯科口腔外科	1,690,000	補 委	日本学術振 興会
小児肝移植後の長期成績向上に 向けたマイクロRNAを標的とした核 酸治療の開発	田中 夏美	小児外科	1,690,000	補 委	日本学術振 興会
脊髄損傷後の内因性神経幹細胞 単離・抽出の試み	陰山 博人	脳神経外科	1,170,000	補 委	日本学術振 興会
創傷治癒過程における、機械的伸 展刺激と皮膚免疫系相互作用機 序の解明	河合 建一郎	形成外科	2,080,000	補 委	日本学術振 興会
神経細胞死後の二次変性・他細胞 障害に至る経路の解明	石川 裕人	眼科	910,000	補 委	日本学術振 興会
ナンセンス変異依存性mRNA分解 制御による筋ジストロフィー分子治 療効率化の検証	李 知子	小児科	1,170,000	補 委	日本学術振 興会
肝内胆管癌におけるProfibrogenic Factorの存在とその機能解析	岡本 共弘	肝・胆・膵外科	1,170,000	補 委	日本学術振 興会
Nrf2活性化による脳虚血再灌流 障害の軽減と治療可能時間の延 長	高木 俊範	脳神経外科	1,690,000	補 委	日本学術振 興会
中耳手術後の舌知覚障害と膝神 経節におけるMAP kinaseの機能解 析	桂 弘和	耳鼻咽喉科・頭頸部 外科	1,950,000	補 委	日本学術振 興会
一酸化炭素吸入はドナー臓器を保 護しえるのか？ラット心臓移植を用 いた検討	藤崎 宣友	救命救急センター	780,000	補 委	日本学術振 興会
手術関連有害事象に関する予後 評価およびリスク因子解明のため の臨床疫学研究	太田 好紀	総合内科	2,340,000	補 委	日本学術振 興会
ヒトにおけるマクロTSHの睡眠障害 との関連に関する検討	角谷 学	糖尿病・内分泌・代 謝内科	1,430,000	補 委	日本学術振 興会
間葉系幹細胞による皮膚炎抑制の 研究	山本 雅章	皮膚科	1,690,000	補 委	日本学術振 興会
IL-34二量体のCSF-1受容体を介 した多様なシグナル伝達機構の解 明	川邊 睦記	歯科口腔外科	1,950,000	補 委	日本学術振 興会

小計15

ジストロフィン遺伝子微小変異症例の解析によるスプライシング促進配列の同定	下村 英毅	小児科	1,560,000	補委	日本学術振興会
多剤耐性グラム陰性菌対策としてのAntimicrobialStewardship	植田 貴史	感染制御部	300,000	補委	日本学術振興会
HIV感染症患者におけるQOLと抗HIV療法との関連についての研究	日笠 真一	薬剤部	410,000	補委	日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫術後の回復期身体運動機能及び健康関連QOLに対する術後活動量の影響	田中 隆史	リハビリテーション部	570,000	補委	日本学術振興会
造血幹細胞移植患者の無菌室内における体力低下の主要因となる機能障害の探索	若杉 樹史	リハビリテーション部	570,000	補委	日本学術振興会
骨軟部腫瘍に対するCTガイド下凍結療法:基礎的研究と臨床試験	山門 亨一郎	放射線科	65,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌に対するミリプラチン・リポドール懸濁液動注後経皮的ラジオ波凝固療法	山門 亨一郎	放射線科	390,000	補委	日本学術振興会
大腸癌の浸潤・転移におけるCdh1の役割の解明	藤元 治朗	肝・胆・膵外科	260,000	補委	日本学術振興会
白血球活性化抑制による動脈硬化治療を目指した臨床薬理学的研究	森本 剛	臨床研究支援センター	195,000	補委	日本学術振興会
HGF受容体アゴニスト・アンタゴニストとIL-2を用いた免疫反応の制御	佐野 統	リウマチ・膠原病内科	65,000	補委	日本学術振興会
サーモグラフィを看護業務に応用するための画像転送および判定システムの開発	小柴 賢洋	臨床検査科	13,000	補委	日本学術振興会
サーモグラフィを看護業務に応用するための画像転送および判定システムの開発	夏秋 優	皮膚科	13,000	補委	日本学術振興会
慢性心不全における貧血と炎症に交感神経と酸化ストレスは関与するか	増山 理	循環器内科	195,000	補委	日本学術振興会
慢性心不全における貧血と炎症に交感神経と酸化ストレスは関与するか	内藤 由朗	循環器内科	195,000	補委	日本学術振興会
エボラ出血熱や急性熱性感染症の制御を目指した放射温度計による発熱判定基準の構築	小柴 賢洋	臨床検査科	26,000	補委	日本学術振興会

小計15

転移性脳腫瘍におけるWT1ワクチン療法・分子標的治療併用新規集学的治療法の開発	友金 祐介	脳神経外科	130,000	補委	日本学術振興会
微小環境がもたらす肝癌の治療抵抗性の獲得機構-融合プロテオミクスを用いた解析-	藤元 治朗	肝・胆・膵外科	260,000	補委	日本学術振興会
強迫スペクトラム障害における反復行動の行動表現型及びQOLと機能への影響の検討	松永 寿人	精神科神経科	390,000	補委	日本学術振興会
細胞骨格制御因子をターゲットとした創傷治癒機構の解明	河合 建一郎	形成外科	65,000	補委	日本学術振興会
組織幹細胞におけるゲノム安定性の制御	辻村 亨	病院病理部	5,200,000	補委	日本学術振興会
Neoatherosclerosisと退行性血管病変の本態解明と治療法開発	森本 剛	臨床研究支援センター	390,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアの予防をめざす:加齢による筋タイプII線維の萎縮防止の分子機構の解明	宮崎 彩子	臨床遺伝部	65,000	補委	日本学術振興会
骨格筋への多価陽イオン投与による廃用性筋萎縮予防法開発のための基礎的研究	宮崎 彩子	臨床遺伝部	65,000	補委	日本学術振興会
重症熱性血小板減少症候群のマダニ媒介サイクルの解明	夏秋 優	皮膚科	130,000	補委	日本学術振興会
MRI画像解析に基づく計算機支援による定量的なACL再建術最適化	吉矢 晋一	整形外科	130,000	補委	日本学術振興会
MRI画像解析に基づく計算機支援による定量的なACL再建術最適化	中山 寛	整形外科	65,000	補委	日本学術振興会
専門職倫理教育の相互行為分析ー医学教育におけるロールプレー授業の研究	宮崎 彩子	臨床遺伝部	208,000	補委	日本学術振興会
安全な薬物治療をリアルタイムで支援する臨床決断支援システムの開発に関する研究	森本 剛	臨床研究支援センター	9,800,000	補委	厚生労働省
指定難病に該当する胎児・新生児骨系統疾患の現状調査と診療ガイドラインの改定に関する研究	澤井 英明	臨床遺伝部	14,950,000	補委	厚生労働省
指定難病を目指した2型コラーゲン異常症の疾患概念と診断基準の確立	澤井 英明	臨床遺伝部	870,000	補委	厚生労働省

小計15

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	中村 志郎	炎症性腸疾患内科	300,000	補委	厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	中村 志郎	炎症性腸疾患内科	200,000	補委	厚生労働省
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステム構築のための研究	飯島 尋子	超音波センター	350,000	補委	厚生労働省
在宅がん患者の栄養サポートに精通した在宅医療福祉従事者の全国的育成システムの開発	榎本 平之	肝・胆・膵内科	300,000	補委	厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	池内 浩基	炎症性腸疾患外科	300,000	補委	厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	池内 浩基	炎症性腸疾患外科	200,000	補委	厚生労働省
2500人の糖尿病患者集団の10年予後からみた治療戦略に対する検討	森本 剛	臨床研究支援センター	1,100,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	佐野 統	リウマチ・膠原病内科	500,000	補委	厚生労働省
遺伝性ジストニア・ハンチントン病の診療ガイドラインに関するエビデンス構築のための臨床研究	三村 治	眼科	500,000	補委	厚生労働省
救急医療体制の推進に関する研究	中尾 博之	救急・災害医学	150,000	補委	厚生労働省
脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	松井 聖	リウマチ・膠原病内科	150,000	補委	厚生労働省
循環器疾患の新たな治療法の開発に関する研究	吉村 紳一	脳神経外科	2,984,800	補委	日本医療研究開発機構
疾患特異的iPS細胞を用いて同定したFGFR3異常症の治療薬候補スタチンの治験に必要な非臨床試験と病態解明	澤井 英明	臨床遺伝部	10,990,000	補委	日本医療研究開発機構
羊膜由来間葉系幹細胞の再生医療製品化と急性GVHDに対する治療応用	山原 研一	輸血・細胞治療センター	27,809,400	補委	日本医療研究開発機構
ヒト脳傷害誘導性神経幹細胞を用いた神経再生療法	高木 俊範	脳神経外科	13,000,000	補委	日本医療研究開発機構

ヒト脳傷害誘導性神経幹細胞を用いた神経再生療法	高木 俊範	脳神経外科	2,345,000	補 委	日本医療研究開発機構	小計1 合計120
-------------------------	-------	-------	-----------	--------	------------	--------------

(注)

1.国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2.「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3.「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Miwa Hiroto, Uedo N, Watari Jiro他	消化管内科	Randomised clinical trial: efficacy and safety of vonoprazan vs. lansoprazole in patients with gastric or duodenal ulcers – results from two phase 3, non-inferiority randomised controlled trials.	Aliment Pharmacol Ther,45(2),240-252,Jan,2017	Original Article
2	Nakanishi Takeshi, Kuragano Takahiro, Nanami Masayoshi他	腎・透析内科	Iron Localization and Infectious Disease in Chronic Kidney Disease Patients.	Am J Nephrol,43(4),237-244,Apr,2016	Original Article
3	Naito Yoshiro, Hosokawa Manami, Sawada Hisashi他	循環器内科	Transferrin Receptor 1 in Chronic Hypoxia-Induced Pulmonary Vascular Remodeling.	Am J Hypertens,29(6),713-718,Jun,2016	Original Article
4	Tsubamoto Hiroshi, Inoue Kayo, Sakata Kazuko他	産科婦人科	Itraconazole Inhibits AKT/mTOR Signaling and Proliferation in Endometrial Cancer Cells.	Anticancer Res,37(2),515-519,Feb,2017	Original Article
5	Zenitani Masahiro, Nojiri Takashi, Uehara Shuichiro他	小児外科	C-type natriuretic peptide in combination with sildenafil attenuates proliferation of rhabdomyosarcoma cells	Cancer Med,5(5),795-805,May,2016	Original Article
6	Miki Kojiro, Fujii Kenichi, Kawasaki Daizo他	冠疾患内科	Impact of analysis interval size on the quality of optical frequency domain imaging assessments of stent implantation for lesions of the superficial femoral artery.	Catheter Cardiovasc Interv,89(4),735-745,Mar,2017	Original Article
7	Goda Akiko, Masuyama Tohru	冠疾患内科	Obesity and Overweight in Asian People.	Circ J,80(12),2425-2426,Nov,2016	Others
8	Miwa Hiroto, Kondo Takashi, Oshima Tadayuki	消化管内科	Gastroesophageal reflux disease-related and functional heartburn: pathophysiology and treatment.	Curr Opin Gastroenterol,32(4),344-352,July,2016	Original Article
9	Miki Kojiro, Fujii Kenichi, Shibuya Masahiko他	冠疾患内科	Comparing the vascular response in implantation of self-expanding, bare metal nitinol stents or paclitaxel-eluting nitinol stents in superficial femoral artery lesions: a serial optical frequency domain imaging study.	EuroIntervention,12(12),1551-1558,Dec,2016	Original Article

計9件

10	Kanemura Shingo, Kuribayashi Koza, Funaguchi Norihiko他	呼吸器内科	Metabolic response assessment with 18F-FDG-PET/CT is superior to modified RECIST for the evaluation of response to platinum-based doublet chemotherapy in malignant pleural mesothelioma.	Eur J Radiol,86(1),92-98,Jan,2017	Original Article
11	Kawanaka Yusuke, Kitajima Kazuhiro, Fukushima Kazuhito他	放射線医療センター核医学・PET診療部	Added value of pretreatment (18)F-FDG PET/CT for staging of advanced gastric cancer: Comparison with contrast-enhanced MDCT.	Eur J Radiol,85(5),989-995,Mar,2016	Original Article
12	Fukui Atsushi, Taima Ayako, Fuchinoue Kohei他	産科婦人科	Broken tip of mono-polar surgery probe located in the abdominal wall after laparoscopically assisted myomectomy: A case report.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol,6,46-48,Mar,2017	Case report
13	Soyama Yuko, Mano Toshiaki, Goda Akiko他	救命救急センター	Prognostic value of diastolic wall strain in patients with chronic heart failure with reduced ejection fraction.	Heart Vessels,32(1),68-75,Apr,2017	Original Article
14	Miki Kojiro, Fujii Kenichi, Fukunaga Masashi他	冠疾患内科	Impact of intravascular ultrasound findings on long-term patency after self-expanding nitinol stent implantation in the iliac artery lesion.	Heart Vessels,31(4),519-527,Apr,2016	Original Article
15	Naito Yoshiro, Hosokawa Manami, Sawada Hisashi他	循環器内科	Iron is associated with the development of hypoxia-induced pulmonary vascular remodeling in mice.	Heart Vessels,31(12),2074-2079,Dec,2016	Original Article
16	Kishima Hideyuki, Mine Takanao, Takahashi Satoshi他	冠疾患内科	The impact of left atrial pressure on filtered P-wave duration in patients with atrial fibrillation.	Heart Vessels,31(11),1848-1854,Nov,2016	Original Article
17	Masaki Mitsuru, Mano Toshiaki, Eguchi Akiyo他	臨床検査科	Long-term effects of L- and N-type calcium channel blocker on uric acid levels and left atrial volume in hypertensive patients.	Heart Vessels,31(11),1826-1833,Nov,2016	Original Article
18	Kishima Hideyuki, Mine Takanao, Takahashi Satoshi他	冠疾患内科	Morphologic remodeling of left atrial appendage in patients with atrial fibrillation.	Heart Rhythm,13(9),1823-1828,Sep,2016	Original Article
19	Enomoto Hirayuki, Nishikawa Hiroki, Ikeda Naoto他	肝・胆・膵内科	improvement in the Amino Acid Imbalance in Hepatitis C Virus Infected Patients After Viral Eradication by Interferon Treatment.	Hepat Mon,16(6),e35824,Jun,2016	Original Article
20	Nishiguchi Shuhei, Urano Yasuhisa, Suzuki Keiko他	肝・胆・膵内科	Safety and efficacy of faldaprevir in combination with pegylated interferon $\alpha$ -2b and ribavirin in Japanese patients with genotype-1 chronic hepatitis C virus infection.	Hepatol Res,47(3),e142-e151,Mar,2017	Original Article

21	Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki, Iwata Yoshinori他	肝・胆・膵内科	Impact of serum Wisteria floribunda agglutinin positive Mac-2-binding protein and serum interferon- $\gamma$ -inducible protein-10 in primary biliary cirrhosis.	Hepatol Res,46(6),575-583,Sep,2016	Original Article
22	Yoh Kazunori, Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki他	肝・胆・膵内科	Comparison of sleep disorders in chronic hepatitis C patients treated with interferon-based therapy and direct acting antivirals using actigraphy.	Hepatol Res,46(13),1358-1366,Dec,2016	Original Article
23	Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki, Iwata Yoshinori他	肝・胆・膵内科	Clinical implication of serum Wisteria floribunda agglutinin positive Mac-2-binding protein level on hepatitis B e-antigen loss or seroconversion in hepatitis B e-antigen positive patients.	Hepatol Res,46(11),1065-1073,Oct,2016	Original Article
24	Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki, Iwata Yoshinori他	肝・胆・膵内科	Clinical significance of serum wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2-binding protein level in non-alcoholic steatohepatitis.	Hepatol Res,46(12),1194-1202,Nov,2016	Original Article
25	Oboshi Makiko, Naito Yoshiro, Sawada Hisashi他	超音波センサー	Attenuation of hypertension and renal damage in renovascular hypertensive rats by iron restriction.	Hypertens Res,39(12),832-839,Dec,2016	Original Article
26	Nishikawa Hiroki, Nishiguchi Shuhei	肝・胆・膵内科	Sarcopenia and Sarcopenic Obesity Are Prognostic Factors for Overall Survival in Patients with Cirrhosis.	Intern Med,55(8),855-856,Apr,2016	Original Article
27	Hasegawa Kunihiro, Takata Ryo, Nishikawa Hiroki他	肝・胆・膵内科	Impact of Wisteria floribunda Agglutinin-Positive Mac-2-Binding Protein in Patients with Hepatitis C Virus-Related Compensated Liver Cirrhosis.	Int J Mol Sci,17(9),E1500,Sep,2016	Original Article
28	Kawai Kenji, Ichikawa Minoru, Masuyama Tohru他	循環器内科	Angioscopic comparison of arterial repair after second-generation drug-eluting stent implantation into vulnerable and stable coronary plaques.	Int J Cardiol,221,855-858,Oct,2016	Original Article
29	Imanaka Takahiro, Fujii Kenichi, Hao Hiroyuk 他	救命救急センター	Ex vivo assessment of neointimal characteristics after drug-eluting stent implantation: Optical coherence tomography and histopathology validation study.	Int J Cardiol,221,1043-1047,Jul,2016	Original Article
30	Yamamoto Shingo, Shigemura Katsumi, Kiyota Hiroshi他	泌尿器科	Essential Japanese guidelines for the prevention of perioperative infections in the urological field: 2015 edition.	Int J Urol,23(10),814-824,Oct,2016	Original Article
31	Kanematsu Akihiro	泌尿器科	Translational Research for Pediatric Lower Urinary Tract Dysfunction.	Int Neurourol J,20(Suppl 2),S105-S111,Nov,2016	Review

32	Miki Kojiro, Fujii Kenichi, Fukunaga Masashi他	冠疾患内科	Strut Coverage After Paclitaxel-Eluting Stent Implantation in the Superficial Femoral Artery.	JACC Cardiovasc Imaging,9(6),753-755,Jun,2016	Original Article
33	Sakai Yoshiyuki, Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki他	肝・胆・膵内科	Effect of L-Carnitine in Patients With Liver Cirrhosis on Energy Metabolism Using Indirect Calorimetry: A Pilot Study.	J Clin Med Res,8(12),863-869,Dec,2016	Original Article
34	Takashima Tomoyuki, Enomoto Hirayuki, Iwata Yoshino他	肝・胆・膵内科	Effects of Helicobacter pylori Eradication on the Platelet Count in Hepatitis C Virus-Infected Patients.	J Clin Med Res,8(12),854-858,Dec,2016	Original Article
35	Matsuo Toshihiro, Miyagawa Jun-ichiro, Kusunoki Yoshiki他	糖尿病・内分泌・代謝内科	Postabsorptive hyperglucagonemia in patients with type 2 diabetes mellitus analyzed with a novel enzyme-linked immunosorbent assay	Journal of Diabetes Investigation,7(3),324-331,May,2016	Original Article
36	Tachibana Toshiya, Maruo Keishi, Arizumi Fumihiro他	整形外科	Pharmacological interventions for neuropathic pain associated with compressive myelopathy.	Journal of Pain & Relief,5,258,Sep,2016	Original Article
37	Toshinori Takagi, Hideaki Hara	脳神経外科	Protective effects of cilostazol against hemorrhagic stroke: current and future perspective	Journal of Pharmacological Sciences,131,155-161,Apr,2016	Review
38	Ishihara Masaharu	冠疾患内科	Distal Protection During Primary Percutaneous Coronary Intervention for ST-elevation Myocardial Infarction.	J Atheroscler Thromb,23(12),1307-1308,Dec,2016	Others
39	Kishima Hideyuki, Mine Takanao, Takahashi Satoshi他	冠疾患内科	The Impact of Elevated Left Atrial Pressure in Sinus Rhythm After Cardioversion on Outcomes After Catheter Ablation for Atrial Fibrillation.	J Cardiovasc Electrophysiol,27(7),813-819,May,2016	Original Article
40	Toshinori Takagi, Takahiko Imai, Keisuke Mishiro他	脳神経外科	Cilostazol ameliorates collagenase-induced cerebral hemorrhage by protecting the blood-brain barrier.	J Cereb Blood Flow Metab,37(1),123-139,Jan,2017	Original Article
41	Miki Kojiro, Fujii Kenichi, Kawasaki Daizo他	冠疾患内科	Intravascular Ultrasound-Derived Stent Dimensions as Predictors of Angiographic Restenosis Following Nitinol Stent Implantation in the Superficial Femoral Artery.	J Endovasc Ther,23(3),424-432,Apr,2016	Original Article
42	Oshima Tadayuki, Miwa Hiroto	消化管内科	Gastrointestinal mucosal barrier function and diseases.	J Gastroenterol,51(8),768-778,Apr,2016	Original Article

43	Kanto Ryo, Nakayama Hiroshi, Iseki Tomoya 他	整形外科	Juvenile osteochondritis dissecans in the lateral femoral condyle requiring osteochondral autograft as a revision procedure: a case report.	J Med Case Rep,10(1),3,Dec,2016	Case report
44	Miwa Hiroto, Takeshima Tomomi, Iwasaki Kosuke 他	消化管内科	Medical cost, incidence rate and treatment status of gastroesophageal reflux disease in Japan: analysis of claims data.	J Med Econ,19(11),1049-1055,Jun,2016	Original Article
45	Tamura Akio, Tomita Toshihiko, Oshima Tadayuki 他	内視鏡センター	Prevalence and self-recognition of chronic constipation - Internet survey.	J Neurogastroenterol Motil,22(4),677-685,Oct,2016	Original Article
46	Tomita Toshihiko, Kato Yuu, Takimoto Mayumi 他	消化管内科	Prevalence of irritable bowel syndrome - like symptoms in Japanese patients with inactive inflammatory bowel disease.	J Neurogastroenterol Motil,22(4),661-669,Oct,2016	Original Article
47	Maruo Keishi, Moriyama Tokuhide, Tachibana Toshiya 他	整形外科	Prognosis and adjacent segment disease after lumbar spinal fusion surgery for destructive spondyloarthropathy in long-term hemodialysis patients.	J Orthop Sci,1,1-5,May,2016	Original Article
48	Nakayama Hiroshi, Iseki Tomoya, Kambara Syunichiro 他	整形外科	Analysis of risk factors for poor prognosis in conservatively managed juvenile osteochondritis dissecans of the lateral femoral condyle.	Knee,23(6),950-954,Dec,2016	Original Article
49	Fujisaki Noritomo, Kohama Keisuke, Nishimura Takeshi 他	救命救急センター	Donor pretreatment with carbon monoxide prevents ischemia/reperfusion injury following heart transplantation in rats.	Med Gas Res,6(3),122-129,Oct,2016	Original Article
50	Arizumi Fumihiro, Inoue Shinichi, Tachibana Toshiya 他	整形外科	A sewing needle in contact with the cervical dura mater and vertebral artery: A case report.	Medicine,95(52),e5764-e5766,Dec,2016	Case report
51	Enomoto Hirayuki, Aizawa Nobuhiro, Nishikawa Hiroki 他	肝・胆・膵内科	Relationship Between Hepatic Steatosis and the Elevation of Aminotransferases in HBV-Infected Patients With HBe-Antigen Negativity and a Low Viral Load.	Medicine,e3565,Apr,2016	Original Article
52	Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki, Iwata Yoshinori 他	肝・胆・膵内科	Prognostic significance of nonprotein respiratory quotient in patients with liver cirrhosis.	Medicine,96(3),e5800,Jan,2017	Original Article
53	Nishikawa Hiroki, Nishijima Norihiro, Enomoto Hirayuki 他	肝・胆・膵内科	A predictive model for carcinogenesis in patients with chronic hepatitis B undergoing entecavir therapy and its validation.	Medicine,95(36),e4832,Sep,2016	Original Article

54	Nishikawa Hiroki, Enomoto Hirayuki, Yoh Kazunori他	肝・胆・膵内科	Serum hyaluronic acid predicts protein-energy malnutrition in chronic hepatitis C.	Medicine,95(24),e3920,Jun,2016	Original Article
55	Nishikawa Hiroki, Hasegawa Kunihiro, Ishii Akio他	肝・胆・膵内科	A proposed predictive model for advanced fibrosis in patients with chronic hepatitis B and its validation.	Medicine,95(35),e4679-e4679,Aug,2016	Original Article
56	Odawara Soichi, Doi Hiroshi, Shikata Toshiyuki他	放射線医学	Polaprezinc protects normal intestinal epithelium against exposure to ionizing radiation in mice	Mol Clin Oncol,5(4),377-381,Aug,2016	Original Article
57	Nakanishi Takeshi, Hasuike Yukiko, Nanami Masayoshi他	腎・透析内科	Novel iron-containing phosphate binders and anemia treatment in CKD: oral iron intake revisited.	Nephrol Dial Transplant,31(10),1588-1594,Oct,2016	Original Article
58	Hiroto Kageyama, Shinichi Yoshimura, Tomoko Iida他	脳神経外科	Juvenile Cerebral Infarction Caused by Bow Hunter's Syndrome during Sport: Two Case Reports.	Neurologia Medico-chirurgica,56(9),580-583,Sep,2016	Case report
59	Ikehata Miki, Ohta Shigeto, Mishiro Yasuo他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Usefulness of the Saccharin Test for Assessment of Eustachian Tube Function in Patients With Chronic Otitis Media With Perforation.	Otol Neurotol,38(1),60-65,Jan,2017	Original Article
60	Sukenaga N, Ikeda-Miyagawa Y, Tanada D他	ペインクリニック部	Correlation between DNA methylation of TRPA1 and chronic pain states in human whole blood cells	Pain Med,17,1906-1910,Oct,2016	Original Article
61	Naito Yoshiro, Senchi Aya, Sawada Hisashi他	循環器内科	Iron-restricted pair-feeding affects renal damage in rats with chronic kidney disease.	PLoS One,12(2),e0172157, Feb,2017	Original Article
62	Sei Hiroo, Oshima Tadayuki, Shan Jing他	消化管内科	Esophageal Epithelial-Derived IL-33 Is Upregulated in Patients with Heartburn.	PLoS One,11(4),e0154234, Jul,2016	Original Article
63	Koyama Tetsuo, Domen Kazuhisa	リハビリテーション科	A Case of Hearing Loss after Bilateral Putaminal Hemorrhage: A Diffusion-tensor Imaging Study	Progress in Rehabilitation Medicine,20160003,Jul,2016	Case report
64	Koyama Tetsuo, Domen Kazuhisa	リハビリテーション科	Reduced diffusion tensor fractional anisotropy in the left arcuate fasciculus of patients with aphasia caused by acute cerebral infarct	Progress in Rehabilitation Medicine,1,20160008,Nov,2016	Original Article

65	Tachibana Toshiya, Maruo Keishi, Inoue Shinichi他	整形外科	Use of pain drawing as an assessment tool of sciatica for patients with single level lumbar disc herniation.	Springerplus,5(1),131-2, Aug, 2016	Original Article
66	Tanaka Takashi, Morishita Shinichiro, Hashimoto Masaki他	リハビリテーション部	Physical function and health-related quality of life in patients undergoing surgical treatment for malignant pleural mesothelioma.	Support Care Cancer,25(8),2569-2575, Aug, 2017	Original Article
67	Hashimoto Masaki, Shimizu Shigeki, Takuwa Teruhisa他	呼吸器外科	A case of atypical type A thymoma variant.	Surg Case Rep,2(1),116-117, Jan, 2016	Case report
68	Zenitani Masahiro, Uehara Shuichiro, Nara Keigo他	小児外科	Fluoroscopy-guided Percutaneous Endoscopic Gastrostomy in Children: A Simple and Safe Technique	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech,26(2),167-170, Dec, 2016	Original Article
69	Kitayama Yoshitaka, Fukui Hirokazu, Hara Ken他	臨床検査部	Role of regenerating gene I in claudin expression and barrier function in the small intestine.	Transl Res,173,92-100, Jul, 2016	Original Article
70	Kyosuke Yamanishi, Seishi Maeda, Sachi Kuwahara-Otani他	精神科神経科	Interleukin-18-deficient mice develop dyslipidemia resulting non-alcoholic fatty liver disease and steatohepatitis	Transl Res,173,101-114, Nov, 2016	Original Article
71	Nojima Michio, Yamada Yusuke, Higuchi Yoshihide他	泌尿器科	Immunosuppression Modification by Everolimus With Minimization of Calcineurin Inhibitors Recovers Kidney Graft Function Even in Patients With Very Late Conversion and Also With Poor Graft Function.	Transplant Proc,49(1),41-44, Jan, 2017	Original Article
72	Watari Jiro, Ueyama Shigemitsu, Tomita Toshihiko他	消化管内科	What types of early gastric cancer are indicated for endoscopic ultrasonography staging of invasion depth?	World J Gastrointest Endosc,8(16),558-567, Aug, 2016	Original Article
73	Kanematsu Akihiro	泌尿器科	Response and Rebuttal to Editorial Comment Regarding "Multivariate Analyses of the Factors Associated With Sexual Intercourse, Marriage, and Paternity of Hypospadias Patients".	J Sex Med,13(10),1497, Oct, 2016	Original Article
74	Kanematsu Akihiro, Higuchi Yoshihide, Tanaka Shiro他	泌尿器科	Multivariate Analysis of the Factors Associated With Sexual Intercourse, Marriage, and Paternity of Hypospadias Patients.	J Sex Med,13(10),1488-1495, Oct, 2016	Original Article
75	Noritomo Fujisaki, Keisuke Kohama, Takeshi nishimura他	救命救急センター	Donor pretreatment with carbon monoxide prevents ischemia/reperfusion following heart transplantation in rats	medical Gas Reseach,6(3),122-129, Sep, 2016	Original Article

計11件

計75件

(注) 1.当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2.報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3.「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4.「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5.「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6.「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

(注) 1.当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2.記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じるこ  
と

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査委員会の申請手続き、進行手順、委員長から学長への答申・承認の方法について記載	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 COIマネジメント指針、マネジメント対象者及び対象事項、COIマネジメント委員会の設置及び運営、学外への情報公開等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年14回 (月1回及び随時)

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 臨床研究・研究者倫理合同講習会 日時：平成29年3月24日(金) 17:30~19:00 講師：京都大学大学院医学研究科 医学統計生物情報学 同医学部附属病院 臨床研究総合センター データサイエンス部 森田 智視 教授 演題：「医学系研究に関する倫理指針への対応-研究の質保証の観点から-」 (参加者：525人)	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期臨床研修を修了した卒後 3 年目以上の医師を対象に専門医を目指すための専門的な研修を行う。当該研修においては、専攻分野ごとに研修プログラムを策定し、研修目標・到達目標の設定や、年次ごとのカリキュラムの設定を通して、効果的な研修が実施できるよう配慮している。  
なお、多数の症例を経験させるために、関連病院とも協働して研修を実施している。  
また、専攻分野によっては、研修期間中に大学院へと進学し、研究を行うことを可能としているものもある。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	203.6 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
澤田 暁宏	血液内科	助教	20 年	
松井 聖	リウマチ・膠原病内科	教授	33 年	
勝野 朋幸	糖尿病・内分泌・代謝内科	准教授	19 年	
榎本 平之	肝・胆・膵内科	准教授	23 年	
武田 正中	神経内科	教授	32 年	
木田 有利	腎・透析内科	助教	17 年	
廣谷 信一	循環器内科/冠疾患内科	講師	22 年	
富田 寿彦	消化管内科	講師	19 年	
飯室 正樹	炎症性腸疾患内科	教授	20 年	
新村 健	総合内科	診療部長	30 年	
宮本 裕治	外科	部門長	38 年	
宮脇 淳志	救命救急センター	講師	25 年	
狩谷 伸享	麻酔科・疼痛制御科	准教授	24 年	

服部 益治	小児科	教授	38年	
清野 仁美	精神科神経科	講師	16年	
澤井 英明	産科婦人科	教授	32年	
福西 成男	整形外科	講師	28年	
西本 聡	形成外科	教授	27年	
内田 和孝	脳神経外科	助教	16年	
中川 登	皮膚科	講師	15年	
山本 新吾	泌尿器科	主任教授	29年	
池田 尚弘	眼科	助教	32年	
阪上 雅史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	主任教授	36年	
廣田 省三	放射線科	主任教授	38年	
竹田 健太	I C U	講師	17年	
道免 和久	リハビリテーション科	主任教授	30年	
廣田 誠一	病理診断科	主任教授	32年	
恒遠 剛示	ペインクリニック部	助教	13年	
藤盛 好啓	輸血・細胞治療科	主任教授	38年	
應田 義雄	内視鏡センター	講師	20年	
飯島 尋子	超音波センター	教授	33年	
田端 千春	がんセンター	准教授	24年	
中嶋 一彦	感染制御部	講師	21年	
正木 充	臨床検査科	講師	17年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>（看護師） 専門看護師・認定看護師取得に係る研修をはじめとした急性期医療の現場における実践研修</p> <p>（栄養士等） 「栄養サポートチーム専門療法士」臨床実地修練研修生の実習</p> <p>（検査技師） 認定輸血検査技師認定希望者の施設研修</p> <p>（看護師） 5回、延べ172日</p> <p>（栄養士等） 9回、延べ48日</p> <p>（検査技師） 1回、延べ6日</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>（看護師） 9名</p> <p>（栄養士） 9名</p> <p>（検査技師） 3名</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 難波 光義
管理担当者氏名	管理課長 入佐 賢一、 医事課長 津田 志門 診療支援課長 島田 稔也、 薬剤部長 木村 健

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課	保管部署及び電子カルテ上にて管理している。なお、画像保存通信システム(PACS)は平成21年3月16日より、電子カルテシステムは平成25年2月25日より稼働している。また、入院診療録・外来診療録については如何なる場合においても院外への持ち出しはできないが、画像診断記録及びその他の診療記録については所定の手続きを経ることにより持ち出しの許可を受けることができる。	
		各科診療日誌	診療各科		
		処方せん	薬剤部		
		手術記録	診療支援課、診療各科		
		看護記録	診療各科		
		検査所見記録	診療支援課、診療各科		
		エックス線写真	診療支援課		
		紹介状	診療支援課		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。	
		高度の医療の提供の実績	医事課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課		
		高度の医療の研修の実績	管理課		
		閲覧実績	—		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 薬剤部	電子媒体及び紙媒体をファイリングすることで管理している。一部指針等については院内向けホームページでも公開している。
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
			医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 管理課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部		

電子媒体及び紙媒体を  
ファイリングすること  
で管理している。  
一部指針等については  
院内向けホームページ  
でも公開している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 管理課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 管理課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	管理課
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 管理課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部 管理課		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 入江 猛	
閲覧担当者氏名	管理課長 入佐 賢一、医事課長 津田 志門 診療支援課長 島田 稔也	
閲覧の求めに応じる場所	管理課会議室、医事課会議室	
閲覧の手続の概要		
諸記録の閲覧を請求できる者である、病院に患者を紹介しようとする医師及び歯科医師並びに国及び地方公共団体は当院病院事務部長に「兵庫医科大学病院諸記録閲覧申請書」に必要事項を記入の上申請を行うことで閲覧の許可を得ることができる。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
医師	延	0	件
歯科医師	延	0	件
国	延	0	件
地方公共団体	延	0	件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>I. はじめに</li><li>II. 医療安全管理体制確保のための委員会規約</li><li>III. 当院における医療安全管理体制図</li><li>IV. 院内死亡患者における届出について</li><li>V. 兵庫医科大学病院における異状死体の届出に関する基準</li><li>VI. 医療事故を起こした職員・当該部署職員への心理的支援について</li><li>VII. 大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①以下についての審議<ul style="list-style-type: none"><li>安全管理のための指針、マニュアル等の作成・改訂</li><li>医療事故発生時の対応、職員への周知</li><li>セイフティマネージャーの活動</li><li>安全管理に関する教育・研修</li></ul></li><li>②医療事故等の分析、改善策の立案</li><li>③特定事項の安全管理対策の検討</li><li>④死亡報告事例の確認</li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年18回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療講演会</p> <ul style="list-style-type: none"><li>平成28年5月26日(木)<ul style="list-style-type: none"><li>「ME器機の安全使用について ～人工呼吸器・除細動・保育器を中心に～」</li><li>「MRI検査室における医療安全」</li></ul></li><li>7月26日(火)<ul style="list-style-type: none"><li>「医療者間のコミュニケーション～職種による視点の違いに注目する～」</li></ul></li><li>9月9日(金)<ul style="list-style-type: none"><li>「RRSの考え方と実践 ～Rapid Response Systemって何?～」</li></ul></li><li>10月26日(水)<ul style="list-style-type: none"><li>「个人防护具は正しく装着できていますか？」</li><li>「抗がん剤関連インシデント報告とその対策」</li></ul></li><li>12月16日(金)<ul style="list-style-type: none"><li>「インフォームドコンセントに関する裁判事例」</li></ul></li></ul> <p>多職種協働ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>平成28年5月31日(火)<ul style="list-style-type: none"><li>インフォームドコンセントロールプレイ①</li></ul></li></ul>	

11月5日(土) グループディスカッション  
M&Mカンファレンス  
平成28年5月31日(火), 9月27日(火)  
ミニレクチャー  
院内に向けた、フレキシブルなミニレクチャーを9回開催した。

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有  無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- ① 発生したインシデント・アクシデントに対して、部長、副部長・統括・専従セイフティマネージャーが発生部門のセイフティマネージャーと共に、内容分析、改善策の検討並びに患者・家族への対応の指示を行っている。医療安全管理委員会委員及び各部のセイフティマネージャーから構成される「オンラインインシデント検討会」を毎週開催し、部門に改善策の助言提案を行うことにしている。必要に応じて医療事故検討会を開催し、医療事故等の原因分析・改善策の検討を行っている。
- ② 報告のあった医療事故に対し、医療安全委員会等で原因を分析し、対応・改善策の分析を行っている。事案に応じて事故発生1か月後・3か月後(必要時6ヶ月後)に医療安全管理部(統括・専従SM)と当該部署のセイフティマネージャーが、改善策の実施状況を検証し、医療安全管理委員会に報告している。
- ③ 発生したインシデント・アクシデント内容によりテーマを設定し、看護部事故防止委員会・各部署のセイフティマネージャーと連携して、毎週院内監査ラウンドなどを実施している。
- ④ 毎年6月と2月の医療安全強化月間には、テーマを決め各部署の安全への取り組みを奨励支援している。同時に医療安全管理委員会の委員のラウンドを企画し、広く現場の現状を把握し他部署の見学・現場確認をするなどの機会となっている。
- ⑤ 医療安全NEWSを毎月発行し、当院のインシデント・アクシデント情報・再発防止策・事故後の検証結果、他施設の事故事例、医療安全情報(厚生労働省・各種学会・PMDA等)などを掲載し、職員に周知している。
- ⑥ 全医療人を対象に、当院で発生したインシデント・アクシデントを教材にして、「多職種協働ワークショップ」を開催し、院内で発生した有害事象の共有、多職種連携の強化に努めている。
- ⑦ 医療の質、安全性の強化およびガバナンス強化の一環として、M&Mカンファレンスを定期的で開催している。
- ⑧ 初期研修医に対し、インシデント発生要因の分析や再発防止策を検討する機会を設け、医療安全管理委員会等で報告することによって、医療安全意識のボトムアップ効果と将来的な医師によるインシデント報告の増加を目指し、医療安全教育の一環として行っている。
- ⑨ 医療安全管理部の下部組織である「エコーガイド下CVC挿入推進チーム」「RRSチーム」と共に安全な医療提供にむけ臨床現場での課題の把握と対策の実施、及び職員教育を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①感染管理に関する基本的な考え方</li><li>②感染管理体制</li><li>③職員の教育・研修</li><li>④感染症の発生時の報告</li><li>⑤感染症の発生状況の報告</li><li>⑥感染症の発生時の対応</li><li>⑦病院感染対策のための指針の閲覧</li><li>⑧病院感染対策のための指針の見直し・改正</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院感染対策に関する事項を調査・審議し、院内感染症発生時の原因の分析、改善策の立案、実践、周知等感染管理を推進している。なお、必要があるときには臨時で開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>病院感染制御に対する基本的な考え方及び具体的施策の周知、業務を遂行する上での知識・技能の向上及び病院感染制御に対する意識の高揚を目的として、教育・研修を実施している。</p> <p>●病院感染制御をテーマとする講演会を開催(全職員対象) …年4回 平成28年5月26日(木) テーマ：「耐性菌の動向と抗菌薬の適正使用」 平成28年7月4日(月)～7月8日(金)、10月3日(月)～10月7日(金) テーマ：「クリーンハンドキャンペーン(アルコール手指衛生)」 平成28年10月26日(水) テーマ：「个人防护具(PPE)は正しく着用できていますか？」 平成29年1月19日(木) テーマ：「冬期のウイルス性疾患～ノロウイルス・インフルエンザ対策～」</p> <p>●職種別研修 看護師全員におむつ交換の手技チェック、リンクナースを中心とした感染制御に関する研修を実施。</p>	

清掃職員(委託業者)を対象とした病院感染制御の基本について研修を実施。

院内感染の増加が疑わしい場合、または確認された場合は、施設全体または部署や職種を限定して院内感染対策に関する教育・指導を実施。

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( ( 有 ) )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

病院で取決めた感染症発生に係る報告があった事例は「感染症発生時の対応パターン分類」に基づき感染制御部が判断し、必要により感染対策委員会で審議し対策を講じる。また、耐性菌については、別途レベル分類を設けており、レベルに応じた予防策・対応を行う。

アウトブレイクを疑う事例が発生した場合は、「アウトブレイク発生時の対応」に基づき対応する。アウトブレイクの可能性が高いと判断した場合、感染制御部による原因の究明ならびに拡大防止策を実施する。更にレベル4以上の多剤耐性菌については、1例目の検出からアウトブレイク対応として迅速に対応することとしている。

院内の感染症治療および抗菌薬の適正使用に関しては、抗菌薬適正使用ラウンドとして、感染症治療に関するコンサルテーションに対する対応、無菌検体から検出した病原体への治療介入、新規耐性菌に対する感染症の評価（必要時治療介入）を行う。抗緑膿菌活性を有する抗菌薬の使用割合をDOTで調査し、カルバペネム系25%、タゾバクタム/ピペラシン35%、第4世代セファロスポリン系/セフトジジム25%、ニューキノロン系15%を目標として使用割合をコントロールし、抗菌薬の適正使用を推進している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>① 医薬品安全管理講習会 平成28年10月26日 DVD補講 10月31日・11月1・2・4日 計7回 テーマ 「抗がん剤関連インシデント報告とその対策」 講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 柳井 美奈</p> <p>② 臨床研修医オリエンテーション 平成28年4月4日 テーマ 「医薬品の安全使用について」 講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 柳井 美奈</p> <p>③ 新人看護職員研修 平成28年4月7・10日 計4回 テーマ 「与薬に関する基礎知識」 講師 兵庫医科大学病院 薬剤部 室 親明</p> <p>④ その他 病棟薬剤師などから各診療科・病棟に医薬品安全管理に関するレクチャー実施 化学療法施行の注意事項、後発品への切り替えについて、持参薬の入力方法、 簡易懸濁時の注意、麻薬施用票の記載方法など (実数をカウントし始めたのが2017年4月～。8月までで107件)</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有 無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院で用いる医薬品の採用・購入などに関する事項</li><li>・ 医薬品の管理に関する事項</li><li>・ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項</li><li>・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li><li>・ 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項</li><li>・ 他施設との連携に関する事項</li><li>・ 放射線医薬品管理責任者の配置</li><li>・ 院内製剤の調製及び使用に関する事項</li><li>・ 未承認等医薬品の使用に関する事項</li></ul> <p>医薬品安全使用のための業務手順書に基づく業務の実施については、業務確認票を用いてチェックしている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( (有)・無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ 保険診療等で適用が承認されていない治療、薬品等の使用を行う緊急避難的な治療を行う場合、医療倫理委員会に申請して承認を得ることになっている。
  - ・ 医師の処方した薬剤の使用が未承認医薬品の使用若しくは適応外又は禁忌等の使用方法に該当することを発見した医師・薬剤師等は、薬学的見地に基づき必要に応じて処方した医師等に対して、処方の必要性や妥当性等を確認し処方の変更等の提案を行っている。
  - ・ 緊急安全性情報、安全性速報などの迅速な対応を必要とする情報提供はその経過の記録を保管している。その他、必要に応じて医薬品適正使用のために周知すべき注意喚起情報は、月1回の医療安全ニュースに掲載しその閲覧状況を確認している。
  - ・ 医薬品安全管理責任者に指名された担当者は院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、安全性速報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に関わる情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年141回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 以下の機器の取り扱い方法・安全対策について研修を行っている 人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・補助循環装置・保育器・輸液ポンプ・医療ガス・放射線機器等</li></ul>	
② 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る計画の策定 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無</li><li>保守点検の主な内容： 以下の装置に対しては院内にて保守点検を実施している 人工呼吸器・血液透析装置・血液浄化装置・補助循環装置・保育器・体外式ペースメーカー・輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動器・電気メス 以下の装置に対しては保守点検を外部委託している 生体情報モニタ・麻酔器・放射線機器</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： 病棟テレメーター不足による増設時にチャンネルの再配置を実施し、増設時は臨床工学技士が病棟にて設定を行うこととした。これにより病棟間の貸借の廃止を徹底している。</li></ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第9条の23第1項第1号から第15号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 無
<p>・責任者の資格 ( <u>医師</u> ・ 歯科医師 )</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>◇ 医療安全管理責任者 (医療安全管理部長) は、医療安全管理者 (医療安全管理部副部長、統括、専従セイフティマネージャー) とともに、病院長から委譲された権限に基づいて、安全管理に関する院内の体制を構築し、医療安全管理委員会の円滑な運営を図っている。</p> <p>◇ 医療安全管理責任者は、委員会を開催、議事進行を行い、決議事項を病院長に報告している。</p> <p>◇ 医療安全管理部は、委員会で決定された方針に基づき業務を行う。</p> <p>◇ 医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者は、管理部の構成員として医療安全管理責任者と連携し、職種・部門間の調整を図りながら、医療機器の安全性が確保されるように、医薬品の安全使用を高めるように、それぞれの業務を行っている。</p> <p>◇ それぞれ器機、医薬品に関連した重大アクシデントが発生した場合、速やかに委員会 (医療安全管理責任者) に報告し、共に分析し対策を立案している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 6名 ) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師 (医薬品安全管理者) が、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、必要に応じてその結果を医薬品安全管理責任者に報告している。医薬品安全管理責任者は報告された情報を踏まえて、必要に応じて医薬品安全管理者に指示して DI ニュースで当該情報を院内に通知している。特に重要な情報については医療安全ニュースの「医薬品安全使用のための注意喚起情報」に掲載し、その周知状況については全診療科の閲覧記録を確認している。また、これらの手順は医薬品の安全使用のための業務手順書に記載して院内に周知させている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品 (適応外使用又は禁忌使用) は、各診療科が未承認新規医薬品等評価委員会に報告することで病院として把握するシステムが構築されている。未承認新規医薬品等評価委員会が必要に応じて当該診療科に対して指導を行う。また、医薬品が適応外又は禁忌等で使用されたことを発見した医師・薬剤師等は、薬学的見地に基づいて必要に応じて処方した医師等に対して疑義照会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・担当者の指名の有無 (有・無)</li><li>・担当者の所属・職種：医薬品安全管理責任者から指名された者<ul style="list-style-type: none"><li>(所属：薬剤部, 職種 薬剤師 木村 健)</li><li>(所属：薬剤部, 職種 薬剤師 田中 邦佳)</li></ul></li></ul>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有 無)</li> <li>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ インフォームド・コンセントを得るにあたって</li> <li>◇ インフォームド・コンセントを得る手順</li> </ul> </li> </ul>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>責任者には病院長の直轄下に、診療情報管理室長（医師）を設置（選任）しており、診療情報管理士による診療録管理の統轄を行っている。</li> <li>また、2回／毎年、全診療科を対象に、診療録管理委員長の監督下による診療録管理委員会の委員（医師、看護師、診療情報管理士）が、対象となる診療科の医師（病棟医長）並びに看護師長、立ち会いの下、「オーディット」を実施している。</li> </ul> </li> </ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有 無
<p>所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（15）名  うち医師：専従（0）名、専任（0）名、兼任（6）名  うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名  うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>①安全管理体制の構築、委員会の運営、指針、マニュアルの改訂など</li> <li>②医療事故を防止するための情報収集、分析、改善策の立案、フィードバック、評価</li> <li>③改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言</li> <li>④安全管理対策の実施状況の調査、分析</li> <li>⑤セイフティマネージャーの活動支援</li> <li>⑥医療安全に関する職員への教育・研修の実施</li> <li>⑦医療事故への対応：届出・公表を含む事故発生後の対応、事故の要因分析</li> <li>⑧全死亡事例の検証（院内死亡患者届出票・死亡患者リスト）</li> </ol> </li> </ul> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 無)</li> <li>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 無)</li> <li>・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は特定機能病院承認要件見直し概要に沿って規定を作成し完成したが活動はしていない。実際の活動は次年度に向けて計画中。</li> </ul> </li> <li>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)</li> </ul>	

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有  無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有  無 )

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有  無 )

・活動の主な内容：  
今年度は、特定機能病院承認要件見直し概要に沿って、規定を作成し完成したが活動はしていない。実際の活動は次年度に向けて計画中。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有  無 )

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有  無 )

⑨ 監査委員会の設置状況 (  有  無 )

・監査委員会の開催状況：年 0 回

・活動の主な内容：  
病院長から、医療安全管理者、医療安全部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者等の業務が適切に実施されているか等について説明(報告)を求めると共に実施(立ち入り調査を含む)で監査を行う。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( 有  無 )

・委員名簿の公表の有無 (  有  無 )

・委員の選定理由の公表の有無 (  有  無 )

・公表の方法：病院公式ホームページ

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
村尾 仁	大阪医科大学附属 病院	○	医師	無	1
夏住 要一郎	色川法律事務所		弁護士	無	1
中西 清	学校法人 兵庫医科大学		医療を受ける者 (公認会計士)	有	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
  3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：  
年 457 件  
※平成 28 年 6 月までは死亡届をルール化し報告を必須とした 7 月以降は全例報告されている。

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったも

のとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：

年 99 件 ※事実関係報告としての報告件数。

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

影響レベル3 b以上の事例・事象は『事実関係報告書』を提出することとして、予期せぬ合併症、重篤な合併症事例の報告を受け委員会で検討している。

死亡事例報告に関しては、平成28年7月から『院内死亡患者届出票』の様式・運用を決定し提出を促した。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り (有) (病院名：東海大学医学部附属病院) ・無)

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有) (病院名：東海大学医学部附属病院) ・無)

・技術的助言の実施状況

☆ 手順書の遵守状況の確認として病棟薬剤師のチェックのみで巡視を行っていないが、週1回 SMにより行われている定期ラウンドに医薬品関連の項目も含めてラウンドしてみてもどうか。の助言に対して、医療安全管理部の定期ラウンドにおいて、『医薬品の安全使用のための業務手順書』に基づいたチェック（医薬品の安全使用のための手順書の確認、アレルギー入力の実施状況を確認するなど）を少しずつ取り入れている。

☆ 教育について、多職種による実際の有害事象を模擬患者と共にロールプレイで行う。協働ワークショップは、毎年高い評価を頂いている。継続的に取り組んでいる。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者及び患者家族からの相談は、医療支援センターを窓口としている。内容に応じて医療安全管理部・管理課医療安全係りに連絡が入ることとなっている。また、診療科、病棟・外来を介しても医療安全管理部に連絡が入るので、その都度対応している。医療安全管理部員については、患者相談に応じるスキルアップの為、メディエーター研修等を適宜受講している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有) 無 )

・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定め (有) 無 )

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有) 無 )

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

・医療講演会 (年間5回開催 )

① 医療機器に関して (放射線検査含む) ※臨床工学部・放射線医療センターとの連携

② コミュニケーションに関して ※外部講師招聘

③ RRS に関して ※外部講師招聘

④ 個人防護具に関して・抗がん剤関連 ※感染制御部と薬剤部との連携

⑤ インフォームドコンセントに関して ※顧問弁護士に講師を依頼

・多職種協働ワークショップ (年間2回開催)

① インフォームドコンセントロールプレイ：自分の説明スキル、患者から求められている自らの専門職種の立場を知る。

② 医療安全：当院の有害事象の具体例を知り、分析し対策をたてる。

- ・医療安全ミニレクチャー（年間9回開催）

その時々の特ピックス（事故調査制度など）、当院における医療安全の実際、実際の事例の検討など基本的な事柄を取り上げた小規模な研修。

- ・M&Mカンファレンス

2回開催（7事例）各科の協力を得て開催。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者は、日本医師会医療安全推進者養成講座を受講済み又は受講中である。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 平成28年2月5日付で（財）日本医療機能評価機構の病院機能評価（3rdG:Ver1.1）の認定（一般病院2）を受けている。 2016年2月24日付で臨床検査室認定（ISO 15189：2012）の認定を受けている。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページや院内掲示を通じて、患者さん及び外部へと診療実績（クリニカル・インディケーター）をはじめとした情報を発信している。また、「学校法人兵庫医科大学広報」と「ここらいふ」の2誌を定期的に発行しており、連携病院に対しては送付による案内も行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 安全管理体制の強化を図るとともに、医療の質向上を目指し、複数診療科の医師、看護師をはじめとしたメディカルスタッフ等多職種からなる医療チームを編成し、適切な患者ケアや総合的な患者管理等を行う医療チーム及び医療従事者の質向上を目的とする合計9つの医療チームを組織している。 (患者ケア等を目的とする) ・感染対策チーム（ICT）・褥瘡対策チーム・栄養サポートチーム（NST）・緩和ケアチーム・呼吸ケアチーム（RST）・精神科リエゾンチーム・周術期管理チーム (医療従事者の質向上を目的とする) ・エコーガイド下CVC挿入推進チーム・救命処置（BLS・ALS）推進チーム	